

内憂外患に苦しむバイデン政権の現状

笹川平和財団上席研究員
渡部恒雄

わたなべ 恒雄

- * 政治分断の根元にある考え方は何か
- * 「内憂」が「外患」を呼ぶ構造
- * 保護主義で内向き志向のバイデン政権
- * アメリカ無しで回りだした中東政治
- * 政経分離状態にある米中対立のゆくえ
- * 広島サミットを成功させた日本の役割
- * 内向き志向が裏目に出た中東外交
- * 米印蜜月関係の背景について
- * 韓国主導で改善に向かう日韓関係
- * 不透明要素が多い来年の大統領選挙



山縣 それでは開会いたします。（拍手）

渡部先生のご紹介をさせていただきます。渡

部先生は、皆さんご承知のように笹川平和財団で安全保障研究グループの上席研究員をなさっていて、日米の政治、外交、それから安全保障、こういった問題の専門家として長く活躍されています。アメリカの有名なCSISにいらつしやって、三井物産の戦略研究所、東京財団を経て今の研究所で活躍をされています。

それから、皆さんご存じかと思えますけれども、先生のお父様は大学院のときに石橋湛山の私設秘書をなさっていて、東洋経済ともそういう意味では長い付き合いがある先生です。

それでは先生、今日はよろしくお願いいたします。（拍手）

政治分断の根元にある考え方は何か

渡部 ただいまご紹介いただきました、渡部

恒雄と申します。といっても、もうこちらも何度目かになります。かなり頻繁にお話をさせてもらっていますのでおなじみだとは思いますが、今ご紹介いただいたように父、渡部恒三は学生時代、石橋湛山先生の秘書をさせていただきました。コロナ禍だったので、東京では偲ぶ会ができません。5月の終わりに超党派の国会議員の有志の方々に開催していただきました。立憲民主党の議員からのイニシアティブに自民党の方々も乗っていただき、超党派で発起人をしていただきました。ありがたいことに多くの